



暑い日にまいて梅雨のことなど忘れてたら4日に梅雨明けとの発表があり、昔の梅雨ははっきりしていたなあと思ひ出すこの頃です。

(記録中、前日の画像には 7/2 と記載)



ジャノメチョウ

林などでよく見かけるヒメウラナミジャノメより大きく、愛知池では6月から8月に、草原をひら

ひら飛んでいるのを見かけます。ジャノメチョウを見かけると、夏が来たんだと改めて感じさせてくれます。雌(右)は雄(上)に比べ淡い



ウスバキトンボ(7/2)

草地の上で上下しながら飛び回っていましたが、翌日には一つもいなくなっていました。まだ思ったほどは数が増えていないようです。



ウバタマムシ(7/2)

草地でバッタを探していたら、近くの桜の幹

に着地したのに気付きました。タマムシに比べれば地味ですが、顔を近づけて見ると、表面にある彫りのようすや黄色い模様がきれいでした。



シオヤアブ(7/2)

蜂を思わせる黄色と黒のしま模様と白い尻尾、足も二色でおしゃれです。このがっしりした足で虫を捕まえる草原のハンターです。



マエキツトガ(7/2)

草をかき分けていると、盛んに飛びました。銀色の翅の黄色い筋模様がきれいでした。成虫は初夏から盛夏にかけてみられる蛾です。食草不明。



ヤマハギ

毎年7月頃チガヤがほけるころ、花が付き始めます。秋の七草に数えられる花です。



アオメアブ

体は茶褐色で複眼が青緑色に見える捕食性昆虫です。都市周辺では減少傾向で、愛知池には良好な草地環境があると言えます。



クサレダマ



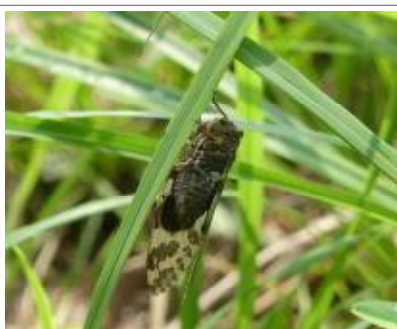
オカトラノオ

両者ともサクラソウ科の植物で、クサレダマはやや湿ったところに生えます。クサレダマは草連球で、熱帯性のレダマに似ているそうです。また、オカトラノオは最盛期を迎えていて長く伸びた花序がトラの尾に似ています。



ヤマモモ

毎年7月上旬に見ることができます。3月頃、雄の木には雄花が、雌の木には雄花より少し遅れて雌花が咲きます。赤く熟すと酸味が楽しめます。



ニイニゼミ

7/2にはニイニゼミのチーという声が聞こえていました。3日には草に止まった羽化したばかりの蟬を見つかりました。



キリギリス

草むらで雄がギーチョンとよく鳴いていました。雄は臆病なのか姿をなかなか見せません。これは産卵管がある雌です。現在バッタのなかまは幼虫成虫が入り交じっています



ササキリ幼虫

あめ色と黒のツートンカラーが目を引きまます。長い触角を口で整えているようです。よく見ると脚に白い模様があります。



ウグイス

笹藪の奥、ケキョケキョ・・・と鳴きながら落ち着きなく、枝を伝って行ったり来たりしていました。どうやら雄のウグイスで、縄張りを主張していたようです。



ハラビロトンボ

撮影の角度を変えたのが左です。羽化して間もない雄でした。名前の通り幅広いお腹です。



キバナノマツバニンジン(7/2)

北米原産の帰化植物。午後3時過ぎに行ったところ、午前に見ると閉じている花がきれいに咲いていました。午後に咲く花なのです。葉は茎に張り付くようにしています。